



室堂のみくりが池より立山を臨む

清友

No.132

2020年8月
(2020年8月3日発行)

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ5F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

安倍9条改憲NO!

「改憲発議に反対する全国緊急署名」にご協力を

アベノリスクがコロナで浮き彫りに

コロナの感染拡大が止まりません。感染者は「非常事態宣言」当時より多いにも関わらず、政府は「重症者が少ない、医療体制は大丈夫」と、経済優先姿勢を変えていません。

3・4月の感染拡大期は、重症にならない限りPCR検査を受けさせなかったため、感染者数は公表値の10倍だったという推計もあります。一方、現在は当時より陽性率が高いというギャップがあります。公表数値の分析基準が曖昧なので、結果として実態隠しに作用している要素があります。安倍政権のコロナ対策は、拙速だった休校措置やアベノマスク、後手に回った休業要請対策など、全く無力でした。

安倍政権の場当たり的で生活者の視点に立っていない政策は、最早桎梏となっています。

ついにアベノミクスも化けの皮がはがれて

そして、アベノミクスの化けの皮がはがれました。安倍政権発足以来景気拡大を宣伝し続け、日銀や年金基金などを総動員して株価を支え、カンフル剤を打ってきましたが、18年10月を境に下降してきたという事実を認めざるを得ないところに迫られました。

ゾンビ企業の既得権擁護とお友達優遇の経済政策では、格差は拡大するばかりです。

危機管理体制のために改憲が必要論はウソ

安倍は、不利なときほど声高に「改憲」を主張します。

コロナ禍を契機に「危機管理体制のために改憲が必要」の論を持ち出しましたが、「それどころではない」という国民的批判により引つ込めました。そもそも、「危機管理」は、現行法制改正で充分対応できます。改憲は必要ありません。

「改憲発議反対」の声を国会に集中させよう

しかし、安倍は依然として改憲発議を諦めてはいません。安倍子飼いの検事総長就任の企みは、ネットを中心とした反対の声により阻止できました。一律10万円の特別定額給付金も国民の声なしには実現しなかったでしょう。

声を上げれば変えられます。改憲の動きを封じるため声を上げましょう。コロナ禍で街頭に出ることはためらわれませんが、署名は有効な手段です。署名用紙は5名用ですが、一人でも結構です。「緊急署名」を秋以降の国会に山と積み上げ、私たちの怒りの声により、改憲発議を阻止しましょう。



第5回会 幹事会

定期総会は一年延期
秋の学習会・新春の集い・
親睦旅行・フィールドワー
ク・お花見企画案等を確認

7月6日、コロナで休止していた第5回幹事会と合同専門部会を4ヶ月ぶりに開き、次のことを確認しました。

定期総会は一年延期

上部団体の行事は秋までほぼ全面休止、都庁退各単会も定期総会を延期または書面開催、東京清掃は、定期大会を書面開催としています。

第13回定期総会の取扱いについて、7月号でお知らせしたように①9月開催、②書面開催、③一年延期を選択肢として検討しました。

その結果、現下のコロナの状況では開催できる環境にならないこと、書面開催も労組等とは違う親睦団体であることから、形式を整えるために経費と労力をかける必要性は乏しいと判断し、規約上問題があることを承知の上で、一年延

今年の学習会は1回のみ

コロナの状況を踏まえ、今年度の学習会は秋または春の1回とします。コロナ次第ですが、11月または2月の幹事会開催日に実施します。

親睦旅行等の実施案確認

秋の親睦旅行(10月)の実施案を確認しました。参加者が少なく中止する場合は、「日帰りツアー」を検討するにとにしました。(別記参照)

秋のフィールドワーク(11月)は「月島巡りともんじや」を予定。日帰り旅行と日程的に重なるため、状況によっては来春になるかもしれません。

「新春の集い」(1月)は、今年の方法を踏襲して実施します。ただし、「密」を避けられません。まさにコロナ次第。

「演芸を楽しむ会」(2月)は、「国立演芸場」の上演方法が大きく変わり、メリットがなくなりましたので、都内四大寄席(新宿、上野、浅草、池袋)の条件等を精査し、開催場所を決めることにします。現在、各寄席の状況を調査中です。

お花見ウォーキング(3月)は、コロナで今年できなかった「小金井公園」とし、同時に再チャレンジします。

とりあえず企画したもの、すべてでコロナ次第です。



一泊旅行は中止

7月6日の幹事会で一泊旅行の実施計画を確認し、8月に参加募集する予定でしたが、旅行先の「鬼怒川温泉ホテルニューさくら(伊東園グループ)より、肝心の「ホテル直行バス運行再開の目処が立たない」という連絡が入りました。

ホテル直行バスなしでは旅行の実施は困難ですので、残念ですが、中止することにしました。

その代わりとして、「はとバス」等の日帰りツアーを検討することにします。

ただし、今から検討に入りますので、実施時期は11月頃になるのではと思います。



コロナ禍の 東京清掃

コロナの影響で年始並みに ごみ急増、区民からの「感謝の手紙」を励みに奮闘中

7月6日に開催した幹事会の冒頭で、東京清掃江森副委員長より東京清掃のコロナ関連状況について報告していただきました。その後の状況の取材内容と併せて報告します。

年始作業並みのごみ量

コロナの感染拡大でステイホーム、休校、テレワークが行われ、ごみが急増。事業を



年始作業並みのごみ量
(板橋区の現場・東京清掃提供)

止めないための感染防止対策と、急増ごみの対応が課題に。

感染者の自宅療養に関するデータはプライバシーとの関連で公表されないため、どこに感染物を含むごみが潜んでいるか分からないプレッシャーの中での作業になった。

3月から5月連休までは元々ごみ量が増える時期だが、コロナの影響で毎日が年始作業並みに。対策車を投入したが、コロナで学生バイト等確保が難しく増員が困難なので、休暇をとれない状態だった。

「コロナと熱中症対策並行

今年の夏は感染症対策と熱中症対策の相反することが求められる特別な夏になる。

環境省は、6月に『ごみ処理作業時等における熱中症対策』の通知を出して、市町村に対し①コロナ感染防止対策



東京清掃江森副委員長

によりリスクが高まる熱中症対策の徹底と「熱中症対策実施にあたり必要な人員配置と作業分担等の検討」、②「クールベストやファン付作業着等熱中症対策物資確保等の検討」を求めている。①の「人員配置」は「増員するなどにより作業軽減を図れ」という意味だ。この通知は、東京清掃が自治労を介して行った環境省との意見交換を踏まえたもので、運動の成果といえる。

続々と「感謝の手紙」

区民からの「感謝の手紙」は続々と各事務所に寄せられ、みんなの励みになっていく。仕事を見直してもらえた意味は極めて大きい。



各区で続々と寄せられた区民からの「感謝の手紙」(品川区) (東京清掃提供)

危機対策の確立が重要

7月末に改めて伺ったところ、ごみ量は例年よりも多い状況ではあるが、だいぶ落ち着いてきたとのこと。

ただし、ついにコロナ感染者が清掃でも出た。渋谷で技能長が感染、濃厚接触者の自宅待機等が行われている。心配なのは江東区、現場職員が感染。発生したばかりなので詳しいことは分からないが、収集作業に影響する可能性も。神戸のように事務所閉鎖になると当該区のごみ処理は大混乱必至。他区からの応援もごみ分別方法の違いなど障碍も多い。危機に対処する方策の検討は各区共通の課題だ。

コロナで苦しむ社会的弱者の支援を 私たちができることを考えてみましょう

会員から「特別定額給付金の有効活用のため、コロナで困っているところにカンパしたいので紹介してほしい」という問合せがありました。現にコロナで苦しむ人をサポートして、東京清掃や全労協が関わってきた経緯がある運動団体や、会員がメンバーになっているところを中心にいくつか紹介しました。

マスクミ報道によると、コロナ関連の解雇は4万人を超えたとされています。各地の労働局やハローワークに相談があつた報告を基にした集計ですから、相談しない泣き寝入りも多数あるのでは、実態はもっと多いでしょう。

コロナで困っているのは、被解雇者、非正規日雇い、フリーランス、アルバイトで生計をたてている学生、シングルマザー、低年金生活者などの社会的弱者です。私たち高齢者退職者もコロナで影響を受けています、社会的弱者の苦境は私

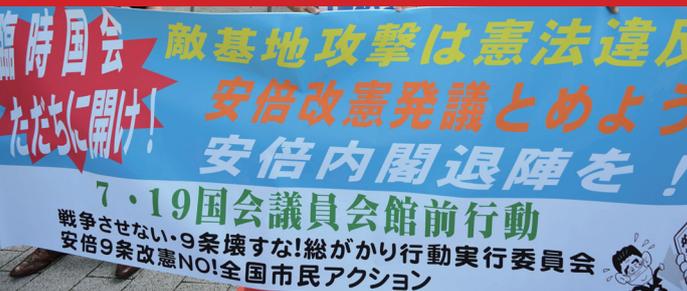
たちの比ではないと思います。私たちはコロナ感染弱者の身ですから、直接の支援行動は限定的なものにならざるをえませんが、例えば、ネットの活用や、被災地・争議支援を目的とした物販の協力により応援する方法もあります。カンパも一つの手段でしよう。その他にも手助けの方法はいろいろあると思います。

参考までに、電話問合せで紹介したカンパ先を掲示します。



- 反貧困ネットワーク
〈郵便振替口座〉00170-5-594755
- 自立生活サポートセンター・もやい
〈郵便振替口座〉00160-7-37247
- 府中緊急派遣村
〈郵便振替口座〉00180-2-632677
- 移住者と連帯する全国ネットワーク
〈郵便振替口座〉00190-7-265037
- 東京アンブレラ基金
* 路上・ネットカフェ生活者支援
など15団体から寄付先を選ぶ

臨時国会直ちに開け 安倍はいらぬ!



7月19日の日曜日、「臨時国会ただちに開け! 敵基地攻撃は憲法違反! 安倍改憲発議とめよう! 安倍内閣退陣を! 国会議員会館前行動」が持たれました。コロナ感染が急増する中、フィジカル・ディスタンスングを確保しての行動で、退職者会は7人の参加でした。

主催者をはじめ立憲野党の議員、各運動団体からのスピーカーは、「安倍政権のコロナ対策は役に立たないアベノマスクや感染拡大を招きかねないGOTOトラベルなど、アベコベだ。一律10万円や家賃な

ど各種補助は野党の要求をパクったものだ。安倍政権は感染症に何も対応できていない。コロナ対策の重要な時期に国会を閉じたままの安倍政権は許しがたい。直ちに臨時国会を召集すべきだ。国会を無視して民主主義を破壊し、コロナ禍に関して何ら具体策を示さない安倍政権はいらぬ!」

「安倍は憲法審議会を開けと言うが、自己の主張に固執して審議会の正常な議論を妨害しているのは政府自民党だ。」など一刻も早く安倍政権を退陣させるべきと訴えました。